

R18イラスト小説



『私のこと……抱いて、あなたのオナナにしてください……♡』

男は即答しない。

邪悪な笑みが漏れ出るのを必死に堪えながら、無言を保つ。

男は知っている。

あれは、発情しきったーオナ^{メス}ナのー表情^{カオ}だと。

貞淑な人妻から、性を自覚する前の未熟な果実まで、男がー喰ーっーてきた

数多の女性たちが、いずれも最後は浮かべるー表情^{カオ}だった。

男の沈黙に耐えかねたのか、あかねが立ち上がった。すると、衣擦れの音が響く。男慣れしていないことがひと目でわかる衣服が床に脱ぎ捨てられて、白い肌と、清楚な下着が露わとなる。

『さっさと断れないな』

あくまで自然に、言葉にした通り、求められたのだから断れないという態度を装い、男はあかねをベッドに押し倒した。

甘い吐息を漏らしながら、見上げてくるあかねの視線に興奮を覚えながら、男は服を脱ぎ捨てていく。

いつも以上に膨張した怒張をつつかえさせながらも裸になると、あかねの視線は完全に露わとなった肉棒に釘付けとなっていた。

『そんなに――俺――のが気になる？』

男の言葉に、あかねはようやく自分が怒張を見つめていることに気付いたようだった。頬を朱に染めながらも、その視線は移らない。

『あの……』

『えっちなあかねちゃんを嫌いになるわけないって言ったただろっつ？』

『あの……』

あかねが言おうとしたことを、先回りして否定してやる。

理解を示して、求めていた言葉を囁いてやるだけで、性欲と恋心とが、本人にも見分けの付かない感情として膨らんでいく。
見ているだけで、それがはつきりとわかる。

これ以上ないというほど勃起した逸物に、さらに血液が流れ込むのを感じる。

痛みさえ感じるほどの興奮のまま、引き出しから――**避妊具**を取りだして装着する。

普段よりも二割増しで怒張した巨根は、――**この**ヤリ部屋にストックしてある
市販の最大サイズでも辛うじて収まった。

発情しきった眼差しで、あかねはそれを見つめてくる。

熟れすぎた果実のように果蜜を染み出させる割れ目に人差し指を近づける。

触れる前から湯気が立つほどの熱が伝わってくる。

指の腹で、ぴたりと閉じた割れ目を撫でてやる。

「ん、あっ……♡」

「声、抑えなくっていいよ。俺の前ではもっとなんか——スケベなオンスナになっていい」

「あ、あっ……は、いっ……♡」

「ひゃあっ、んっ♡ あ、指、入ってっ♡」

「これから俺のオンスナになってもらうために、しっかりとほぐさなきゃいけないからね」

「だげど、あかねちゃんは思った以上にスケベな子みたいだ。ほぐしてあげるまでもなく俺のチンポを迎え入れる準備が済んでる」

くちゅくちゅ

「あっ♡ んうっ♡ わ、たしいっ……」

「指じゃなくってチンポが欲しいのかな？ スケベなあかねちゃん」

快楽に酔った頭にいやらしいオシナだと繰り返し囁く。

性の快感をよく知らない小娘は、自分がいやらしいオシナなのだと「誤認」でかく《する。

一度自覚させてやれば、自分がそうであるなりにあるうとするもの

「好・き・な・男に肯定されればなおのこと。

「は、いっ♡ あな、たのっ……ちんぽ……チンポ、欲しい、ですっ♡」

言った。

男の求める——スケベなオシナ黒川あかねであるうとした証拠。

「ああ、あかねちゃん、

いぢ……あ・か・ねにそう言われたら、断れないね」

痛いほど怒張した肉棒の先端を、あかねの割れ目に宛がう。それだけで、

「あっ、んっ——♡」

「挿入れるよ」

「あ、ひあっ♡んっ♡ ああっ……あなたの、入って、きてますっ……♡」

「あかねの——^{ナカ}膣内、気持ちいいよ」

「わ、たひ、もっ♡」

「きも、ちい、れしゅっ♡」

ゆっくりと、ゆっくりと、慣らすように。

そしてなにより、快楽で馬鹿になる前に、快楽を自覚させるために、時間を掛けて挿入していく。

「ホントに、あかねはスケベなやつだ」

あかねの腰を引き寄せながら、腰を一気に突き入れる。

「ッ♡ あ、あああああ♡」

「動くぞ」

「あ♡♡♡ あ♡♡♡ あ♡♡♡ はあ♡♡」

「あかねのーお・ま・んー」がいらして、もう我慢できなくなーい」

「は、あ♡♡♡ ん♡♡♡ ああ♡♡♡ くだ♡♡♡
しゃ♡♡♡ わた♡♡♡ しの♡♡♡ 中♡♡♡で♡♡♡」

ビクンビクンと身体が跳ねて、涙と涎が美貌を汚していく。

「はぁ……♡ はぁ……♡ はぁ……♡ あぁっ……♡」

普段の倍近い量と時間の射精が終わると、男は数呼吸をおいてから、肉棒を引き抜いていく。先端にぶっくりと、精液の溜まった避妊具をはずすと、いまだ酩酊状態にあるあかねの腹に乗せてやる。

「あかねは気持ちよかった？」

問いかげに、あかねはうっとりとした様子のまま頷く。

「あ……ん……はひ……♡ しゅごく、きもち、よかった、れす……♡」

このオナナが自分の『所有物』^{モノ}となったのだと思うと、射精を終えたばかりの肉棒がむくむくと硬さを取り戻していくのがわかった。

「もっともっと……気持ちいい」コトを教えていってあげるからな、あかね

